

大樹寺から 岡崎城を望む歴史的眺望 (ビスタライン)の変遷



大樹寺惣絵図(東京国立博物館蔵)

寛永18年(1641)に、徳川家光が本堂から三門、総門を通して岡崎城が望めるように大樹寺の伽藍を造営してから232年後、明治維新を迎えた新しい時代には岡崎城は不用とされ、廃藩置県後の明治6年～7年(1873～1874)に解体されましたが、岡崎の象徴である天守閣がないままではしのびないとする

市民の想いは強く、昭和34年(1959)に、85年ぶりにほぼ昔どおりの外観の天守閣が復元されました。

その後、ビスタライン周辺の市街化も進みましたが、その眺望は大きく変わることはなく、現在もライン上にお住まいの方々等のご理解とご協力により守られています。



昭和54年10月13日中日新聞 (1979)



平成15年3月20日中日新聞 (2003)



- 15世紀前半 明大寺の地に西郷頼嗣(稠頼)によって築城されたのがそのはじまり
- 1530 松平清康(家康の祖父)が現在の位置に移して以来、ここが岡崎城と称される
- 1542 徳川家康、岡崎城内で誕生
- 1617 櫓をもつ複合天守閣が完成
- 1641 徳川家光が本堂から三門、総門を通して岡崎城が望めるように大樹寺の伽藍を造営



解体前の岡崎城(1872)

- 1873～1874 城郭取り壊し、天守閣解体

- 1875 旧本丸・二の丸、城址公園となる



大樹寺三門より総門を望む(1899)

- 1959 天守閣復元

- 2008 図書館交流プラザ・りぶらOPEN

りぶらとビスタラインの関係知っていますか？



図書館交流プラザ・りぶらは、ビスタラインを守るため建物の高さを低くするとともに、ビスタラインに沿って、南北に長さ60m、幅7mの交流スペース「お城通り」を設けています。